

【質疑応答】

中国新聞 Stanford e-Hiroshima の開講式の件でお伺いします。これは今年で2回目ということになりますよね。

教育長 3回目ですね。

中国新聞 受講者の方は公募されて選ばれた人たちということですか。

教育長 そうです。

中国新聞 はい。分かりました。このプログラムというのは、広島県教〔育〕委〔員会〕向けにスタンフォード大学がつくっているようなものなんですかね。それとも、世界各国から同じような高校生が集まったりというようなことになるんですか。

教育長 もともと、Stanford e-Japan というのがありまして、日本各地から集まってきた方がスタンフォード大学のプログラムを使ってやっていたものがあるんですけども、これを広島版にカスタマイズしていただいてやっております。広島県以外にも鳥取県とか、あるいは大分県が同じような形で、地元の形〔に合わせたもの〕でやっています。例えば、広島県でありましたら、移民という形ですね、ハワイとか、あるいは、アメリカのカリフォルニアにたくさんの方が〔広島県から〕移民をされています。こういった状況で、〔移民のことを〕知らない若者も多いので、これを話の〔テーマの〕一つとして持っていったり、あるいは、広島特有のピースですね、平和。こういった話題を必ず入れるようにして、このオンラインの講座を組み立てるようにしていただいております。全て英語で行われますので、かなりの予習が必要になってくるのですけれども、この予習、復習も含めて、子供たちは大変よく頑張っているなど毎年思います。

中国新聞 このプログラム自体は、広島県向けにスタンフォード大学がつくっているという〔ことでよいでしょうか〕。

教育長 広島県向けにやっております、これは WWL, ワールド・ワイド・ラーニングという文部科学省の事業がございますが、この中の〔取組の〕一つとしてやらせていただいております。

読売新聞 配付資料としてですね、令和4年度の公立高〔等学〕校入学〔者〕選抜の実施内容という資料を配られましたけれども、昨年度、〔試験場に〕コンパスを持ち込んだ子供が受検できないということがありましたが、その点を改正するとかいう議論は今回拳がったのでしょうか。

教育長 もちろん事案が起こってからですね、入試に関しての各学校での取り決め、それから各先生方にですね、試験官をやってもらっていますけれども、試験官に対するトレーニングというか研修ですね。これについては、きちりと昨年のようなことが起こらないように、二度と起こらないようにということで、常に県教〔育〕委〔員会〕の中でも、あるいは校長会等の中で話し合われておりますし、それが間違いなく実行できるようにしていきたいなと思っております。

読売新聞 つまり、途中で〔受検を〕やめさせるということがないようにということで、コンパスの持込みをOKにするという方向性の議論はないという理解でよろしいですか。

教育長 コンパスだけではなくてですね、例えば、鉛筆の中に漢字が入ってあって、カンニングになってしまうとか、いろんなことがありますので、これ以外は持ち込めませんよということをおいて、それ以外のところで、例えば、お守りを置いておくのもこれもちよとなかなか、気持ちは分かりますけれども、難しいということで、はっきりとこれ以外のものは持ち込めませんよということと、それと試験が

始まる前に、〔持参物を〕チェックをして、もし〔持込み可能なもの以外のものを〕持ち込んでいたらこれは駄目ですよということを言っていきたいと思います。ただ、高校側だけではなくて、市町教育委員会を通して、中学校側へのお伝えもはっきりとしていくようにと思っています。〔検査実施者と受検者と〕ダブルで、それが防止できるようにしております。

読売新聞　では規則は変わらずに、事前の机の上のチェックですとか、〔持込み可能なもの以外のものが〕発見された時点ですぐ退出していただくとか、そういう指導を中〔学校〕、高〔校〕両方の教職員に徹底していかれる。改革はその方向でということでしょうか。

教育長　そうですね。そのような形でやっていきたいと思います。

H T V　県立高校の1学年1学級規模の統廃合について、少しお伺いしたいのですが、現在も、現在は〔在籍生徒数〕80人という基準を設けてやっていっていると思うのですが、現状は80人を割る学校が増えていたりとか、少子化の流れというのがある中で、改めてこの現状の受け止めと今後のここに対しての考え方とか対策とか、その辺の考えをお聞かせ願えればと思います。

教育長　子供の数が減ってきているということにつきましては、全国どこもそうでありますので、これはもうある程度仕方がないかなとは思っております。ただ、現状〔在籍生徒数が〕80人を切る学校が、今年度、昨年度よりも増えてしまったということについては、とにかく〔学校の〕魅力化を発揮していただいて、80人を超えるような形で、県教〔育〕委〔員会〕としても頑張りたいと思いますし、市町の方々についてもできれば協力をお願いしたいと思っております。この魅力を改めて発揮することと、それと80〔人〕というようなことで取り決めておりますので、今のところ、その考えを変えないというような形でやっておりますけれども、今後につきましても、様々御意見を伺いながら、様々検討していかないといけないかなと思っています。

H T V　魅力を発揮するというところで、〔学校の〕自助努力でやっていくべきものもあると思うのですが、一方で少子化などの環境的な要因というのがすごく大きいところもありまして、その辺りのサポートといいますか、県教〔育〕委〔員会〕としてのこの取組、姿勢というのは、こういったところがあるでしょうか。

教育長　学校の方からこういった特徴付けをしていきますかということも、私も全〔県立学校の〕校長とですね、校長ヒアリングあるいは学校訪問等を通して、話をしていますけれども、それ以外のところでも今、1人1台のパソコン〔環境〕が実現しつつありますので、遠隔教育というところで、県内どこに住んでいても、学びの環境があるというようなことが実現できないかなと思っていまして、こちらも高校教育指導課の方を中心としまして、一生懸命やっているところです。こういった形で県教〔育〕委〔員会〕の方もそれから学校の方も、地域の方も三位一体になって、私もできる限り、いろんな形で学校が活性化するということを願っておりますので、とにかく頑張りたいと思っています。